
令和7年度 第3回 (2科目・4科目共通)

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和7年2月5日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生^{くしけんせい}どうしの貸し借り^{かしかり}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{もんだいさつし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は20ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の――線部のカタカナを漢字になおし、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① ルールをコンカンから考え直す。
- ② 運動会のプログラムをリツアンする。
- ③ 県のチョウシヤが完成する。
- ④ シュクガ会に招かれる。
- ⑤ 窓からケシキをながめる。
- ⑥ 小学校のオンシに会う。
- ⑦ 野球用品のセンデンをする。
- ⑧ きのお銭湯に出かけた。
- ⑨ 旅行の土産をもらう。
- ⑩ 時計の針が九時を指す。

【一】 次の文章はプロ野球選手の大谷翔平選手の成功の秘訣について考察しているものです。これを読んで、あとの間に答えなさい。

大谷選手のような成功者たちの共通点は、徹底して量をこなしている、ということ。①「成功確率は理屈抜きに試行回数で決まる」と、私は考えています。自分が定めた成功というゴールにたどり着きたかったら、目の前の作業における試行回数を増やすしかないのです。

たとえば、ここに「成功率が1%」の困難な作業があったと仮定します。この作業を2回繰り返すと、成功率は約2%に増加〔100%－(99%×99%)〕＝1・99%〕します。

その後も試行を繰り返せば、成功確率は着実に増えていき、試行回数が100回のときは、63%を超え、459回繰り返すと、99%にまで到達するのです。

これはあくまでも理論上の数値ですが、試行回数を増やすことが成功に近づく強力な要素であるとわかるはずです。そのことについて、大谷選手はこう語っています。

「やればやるだけ洗練されていくものだと思うので……そこは数をこなしていくのが大事なのではなくて、数をこなす分、よかった、悪かった、の回数が増えていくことで、それがより洗練されていくことにつながっていくんだと思います。数が決まっているとそこまで辿りつけなかったり、自分が思うスイングができなかったりということが出てきてしまいますから……」（『雑誌ナンバー 2019・6・27号』文藝春秋）

あなたの人生の中で、成功した回数ではなく、実行した行動の数を誇ってください。人生における夢の実現は、「描いた夢の数ではなく、あなたの行動の数で決まる」のです。成功確率の低い夢でも、単純に行動の数を増やせば、いずれ夢にたどり着けるのです。

2021年、(注1) ウィスコンシン大学の研究者を中心にした研究グループが、天才の(注2) パーソナリティについて調査しました。研究チームは、過去に実施された天才に関する複数の調査から約8000人のデータを調べたそうです。

この調査が定義した「天才」とは、同世代の人間よりも知性が突出した人たちを指します。ジャンルは、数学や語学の成績はもちろん、芸術的な分野における想像力、哲学的な思考の深さなど、さまざまな知的ジャンルに及びました。

② その結果判明した彼らの共通点は「開放性の高さ」でした。

開放性という言葉は、パーソナリティ研究の用語であり、未知のテーマに(注3) ポジティブな興味を持ち、それに対して具体的な行動を起こせるかどうかを示す性格を意味します。その開放性を示す大谷選手の言葉があります。

「ピッチャーだけをしていたら、ピッチングでしか経験できない発見があるわけですけど、ピッチングをやってバットイングをしていれば、楽しい瞬間はいっぱいあるんです。そういう瞬間が訪れるたびに、僕は投打両方をやっていて『よかったなあ』と思うんじゃないですか」(『道ひらく海わたる 大谷翔平の素顔』扶桑社)

1、天才とはイコール「好奇心」に溢れた人間なのです。私たちが成功にたどり着くための二つ目の要素は、「多様」です。いくら試行回数を増やしても、同じことを繰り返すだけでは成功にはたどり着けません。チャレンジの多様化が(注4) 必須要素なのです。

2、それではまだ「さまざまに試行しているだけ」に過ぎません。行動の量を効率よく成功に導くには、三つ目の要素である「察知力」が必要となります。

察知力とは、自分の身の回りの小さな変化を見逃さない(注5) スキルです。大谷選手は、バットのスイングにおいて並のバッターが気づかないようなほんのわずかな違いを察知するスキルを日々の鍛錬によって身につけています。

実は(注6) イノベーションを起こす人間ほど観察に時間を費やすことが判明しています。つまり、優れた(注7) イノベーターたちは、仕事上の小さな変化を敏感に察知し、それによって誰も真似できないアイデアを生み出しているのです。これも

好奇心なくしては、不可能な作業であると言えます。

パリの警察学校の壁には一世紀以上前から一つの警句が掲げられています。

「脳は外界の特異なものを見つけ出す。しかし、それはすでに脳に存在しているものだ！」

前例のないアイデアを創造する人間ほど、身の回りの特異なものを察知する能力が高いのです。

成功にたどり着くには、まず好奇心を膨らませて試行回数を増やしていくだけでなく、^③試行するテーマに多様性を持たせることも必須なのです。

それでは^④好奇心を膨らませる具体策は何でしょう？

マインドセット研究で有名なキャロル・ドウェック博士のグループは、864人の男女を集め、全員に「普段からどれだけ自問しながら生活しているか？」という質問に答えさせました。

3、何かに行き詰まって（注8）袋小路に入ってしまったとき、「自分にできることは何か？」「もつとうまくやるには？」と自問したり、学習に進歩がないと感じたときに「もつといい方法はないか？」「先に進むために何ができるか？」と自問自答しているかどうかを調査したのです。

その結果、^⑤日頃から自問を繰り返す人ほど学校の成績が良かっただけでなく、健康、貯金などの目標の達成率も高く、実験室で行われた認知テストの結果も優れていたのです。自問自答を習慣化することにより、私たちは二つの重要なスキルを獲得する可能性が高まります。まず一つ目はメタ認知（自分が認知していることを客観的に把握し、制御すること）による視野の拡大です。自分のキャリアを通してやるべきことについて、大谷翔平選手はこう語っています。

「『自分はこういうものを築いてきたというものが最後にある』ということを一番大事にしたいと考えています。変な話、100勝して何もないより、最後に1勝して、そのときにすごいものを発見できたほうが嬉しいのかなと思うので……プロ野球選手にとって勝ち続けることは大事ですけど、それとは別に、自分の中に何かを残すことはそれ以上に大事なのかなと思っています。それが何なのかは終わってみなければわからない部分ですけど、やっぱり最後に満足して

終わりたい。終わって何も残らなかったというのが一番、悲しいですからね」（『大谷翔平 野球翔年』日本編2013〜2018』文藝春秋）

自問自答によりメタ認知能力を高めると、広い視野で物事を考えるスキルが養われます。ちようど上空から獲物を狙う鷹の目のように、物事を捉えることができるのです。当然ながら、地上を動いて獲物を探すよりも、上空から獲物を見つけるほうが有利であることは言うまでもありません。

そしてもう一つの自問自答のメリットは、問いの連鎖により好奇心が強化されるということです。これにより、視野が一層広がり、直感やひらめきが生まれやすくなります。自問自答について、大谷選手はこう語っています。

「無駄な試合とか、無駄な練習っていうのはないかなと思っていて、頑張って何年続けても結果が出ないという練習の仕方っていうのは確実にあると思うんですけど、それを失敗だと気づいて違うことに取り組めば、そこで一個発見があって、それがどんな成功につながっていくのかなと思うので、僕自身まだ成功したとは思ってないですし、むしろ失敗と成功を繰り返している段階なんです」（日本スポーツ振興センターアスリート育成パスウェイ）

一つの問いから違う問いが生まれることで、世の中への関心が広がり、それゆえに周囲の小さな変化に注意を向けさせる効果があります。

問いが問いを生む体験を積み重ねることで、私たちの脳は身の回りの⑥小さな変化に気づくことができ、結果察知力も高まるのです。

心理学では、自分自身に話しかけることを「セルフ・トーク」と呼んでいます。メンタルが強い人の共通点の一つは、セルフ・トークがうまいことです。

フロリダ立大学の心理学者コリー・シャファー博士は、陸上やバスケットボールなど、さまざまな分野の大学のスポーツ

選手 68 名に、ゲームのときにどのような作戦をとっているのかを語らせました。

その結果、彼らが試合のときによく使っている作戦は、「セルフ・トーク」であることがわかりました。メンタルが弱いという自覚があるのなら、自分自身との会話が足りないのです。

自信満々なもう一人の自分にセルフ・トークを通じて励ま^{はげ}してもらったり、勇気づけてもらったりすればいいのです。

大谷選手にしても、心の中で自問自答を繰り返しながら自らのパフォーマンスを洗練させてきたことから、着実に成果を挙げることができたのです。

(児玉光雄^{こだまみつお}『「できない」を「できる」に変える 大谷翔平の思考法』)

(注 1) ウィスコンシン大学⇨アメリカ合衆国ウィスコンシン州の大学。

(注 2) パーソナリティ⇨その人の持ち味。個性。人柄^{ひとがら}。

(注 3) ポジティブ⇨積極的であるさま。

(注 4) 必須⇨なくてはならないこと。

(注 5) スキル⇨訓練や経験などによって身につけた技能。ある人が有している力量や技術。

(注 6) イノベーション⇨制度、慣習、組織を技術やアイデアによって新しく変化させること。

(注 7) イノベーター⇨イノベーションを実行する人。

(注 8) 袋小路⇨行き止まりの道。物事が行き詰まること。

問 1 — 線部①「成功確率は理屈^{りくつ}抜きに試行回数で決まる」とありますが、大谷選手は試行を増やすことに関してどのような考えをしていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 試行回数を増やすのが大事なのではなく、失敗を繰り返^くさないことで成功に近づく。
- イ 試行回数を増やしていくことよりも、試行のたびに夢の実現を強く願うことで成功に近づく。
- ウ 試行回数を徹底^{てつてい}して増やしていくながら、自分が定めた目標をこなすことで成功に近づく。
- エ 試行回数を増やしていく中で、内容の分析^{ぶんせき}を何度も重ねることで実力が磨^{みが}かれて成功に近づく。

問 2 — 線部②「その結果判明した彼^{かれ}らの共通点は『開放性の高さ』でした」とありますが、大谷選手の「開放性の高さ」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 想像力や思考の深さなどにすぐれており、高い知性を修得できる心の余裕^{よゆう}があった。
- イ 目標達成のために制限をもうけずに自分の立場も自由に变えている。
- ウ 一つのことには専念するのではなく他のことにも興味を持ち、複数のことを修得しようとした。
- エ 自分の身の回りのわずかな違いに気づくことができるよう日々修練している。

問 3 本文中の空らん 1 3 に当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア	1	2	3	だから	しかし	あるいは
イ	1	2	3	つまり	そして	むしろ
ウ	1	2	3	つまり	しかし	たとえば
エ	1	2	3	だから	そして	おそらく

問4 〓線「私たちが成功にたどり着くための二つ目の要素は、『多様』」、〓線「三つ目の要素である『察知力』」とありますが、一つ目は何ですか。本文中から十字でぬきだして答えなさい。

問5 〓線部③「試行するテーマに多様性を持たせることも必須ひつすなのです」とありますが、どうしてこのように言えるのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 成功を導くためには、多くの天才と関かわってよく観察し、その思考や想像力を学び身につけることで新しいものを創造していくことが大切だから。

イ 成功を導くためには、同じことを繰り返すだけでなく、さまざまに試行錯誤さくごし身の回りの小さな変化に気づいて、独自の発想を生み出すことが有効だから。

ウ 成功を導くためには、さまざまな視点でものごとを観察する時間を増やし、自分と関係ない未知の分野のことを学ぶことで問題解決の手がかりを得る必要があるから。

エ 成功を導くためには、外界の小さな変化を発見できる多様な知性を鍛きたえて、自分の定めたゴールが適切かどうかを常に考えることが重要だから。

問6 〓線部④「好奇心を膨ふらませる具体策は何でしょう？」とありますが、ここどういう具体策とはどうすることですか。本文中から「こと」に続くように十字でぬきだして答えなさい。

問7 ―線部⑤「日頃ひごろから自問を繰り返す人ほど学校の成績が良かっただけでなく、健康、貯金などの目標の達成率も高く、実験室で行われた認知にんちテストの結果も優すぐれていたのです」とありますが、なぜこのような結果になったと筆者は考えていますか。五十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数にふくめます。

問8 ―線部⑥「小さな変化」と同じ内容を表す語句を本文中から五字でぬきだして答えなさい。

問9 大谷選手の発言内容の説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 大谷選手は、たとえ結果が出なくても成功をめざして違ちがうことにとり組めば、意味のないことはないと考えている。
- イ 大谷選手は、メンタルが弱いと自覚していたので、頭では考えずに体を動かしてよい考えを排除はいじょした。
- ウ 大谷選手は、思うようなスイングができなかったときに、自分が勝ち続けたときのことを考えるようにしている。
- エ 大谷選手は、他の選手のバットのスイングを分析ぶんせきして助言することによってチームの成績を向上させることができた。

三

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

家に帰って、図書館から借りてきた児童書を開いた。

① 数ページ読んで、ぱたんと閉じる。次に別の本を開いたけれど、目で文字を追うだけで、内容が頭の中に入ってこない。本を読むには、ちょっとしたコツがある。はじめに、ぐっと集中する。ある地点を過ぎれば、一気に本の世界に入り込むことができる。そうすれば、嫌なことも忘れられるはずなのに、ちっとも気持ちのらない。

現実から目をそらすことをあきらめて、松島先生からもらった原稿用紙を机に広げた。まだ日にはあるけれど、用意しておいて、少しでも早くスマホを返してもらいたい。

反省文、三枚。

原稿用紙一枚につき、20文字×20行＝400文字。

400文字×3枚＝1200文字。

あたしは、指を折って数えた。

「ご・め・ん・な・さ・い」

六文字で終わってしまう。

「も・う・し・ま・せ・ん」

これも六文字。

はあっと、大きなため息をついた。まともに書いたら、とても原稿用紙が埋まりそうにない。

こうなったら、嘘や思ってもいないことを書くしかない。

とにかく、原稿用紙のマス目を埋めなければ。

書くことは、嫌いじゃない。

だから文芸部に入ったのだ。物語を書いていると思えば、三枚どころかいくらだって書ける自信がある。

② そうだ、先生がスマホを返さざるを得ないような、感動的な名文を書けばいい。

ヘンなところで、カチリとスイッチが入る。

まずは、天・地・人。物語を書くときの基本。いつ、どこで、誰が。

原稿用紙に向かうと、背後に三崎先生が立っていたことを思い出し、ぞくりと寒気がした。

あたしがお姉ちゃんの電話を受けてから、スマホを操作している間、ずっと見ていたんだろうか。あたしがネットにつながたところを見計らって、声をかけたんだろうか。

だとしたら、それってずるい。

もし、お姉ちゃんが電話をしてきたところで声をかけられていたら、あたしは「家族からの急用でした」と答え、ネットにつながることをあきらめていただろう。そうすれば、スマホを没収ぼつしゅうされることもなかった。

でも、それがわかっていたから、三崎先生は待っていたんじゃないだろうか。

あたしがあきらかに、校則違反いはんになる行動をとるまで。

すべてが三崎先生の思惑おもわく通りに進んだのかもしれないと思ったら、心臓がドクドクと脈打った。

いや、余計なことは考えない。大切なのは、原稿用紙を埋めること。

——校則を破ってしまったことを、深く反省しています。

誰が決めたかわからない校則。なんのためにあるかわからない校則だけど。

——先生にも、大変めいご迷惑めいわくをおかけして……。

迷惑なんて、かけたっけ？

……何、これ。

一行書きたびに、心の声が返ってくる。

シャーペンの芯しんがポキッと折れた。知らないうちに、手に力がこもっていた。

「文芸部なら、書くのはお手のものでしょう？」

三崎先生の声がよみがえり、カッと体が熱くなった。

あたしは、読むのも書くのも好きだ。

本屋さんや図書館にある膨大な数の書籍は、宝の山のように見える。そんな宝の山から、^Aかけがえのない一冊を見つけることに心がときめく。自分も誰かの心に響く言葉を紡げるようになりたいと、書き続けている。

こんなものを書くために、がんばってきたわけじゃない。

悔しい、悔しい。

嫌だ。書きたくない。

でも、書かなければスマホを返してもらえない。

ひと文字書くたびに、大切な何か^{けず}が削り取られていくような気がした。

——すみませんでした。

原稿用紙三枚。「どうだ」という気持ちを込めて、最後のマスにぴたりとおさめた。

書き終えたとき、全身から力が抜けて、あちこちが痛かった。

どれほど力を入れて書いていたのだろう。

リビングのソファで寝そべりながら、スマホをいじっているお姉ちゃんに声をかける。

「あの、お願いがあるんだけど。反省文を書いたから、見てもらえる？」

感情的になり過ぎて、ちゃんと書いているかどうか自信がない。

「いいけど。知里、眉間にしわが寄って険しい顔になってるよ。眉間の縦じわは、幸せを逃^{のが}してしまうんだって」

「嘘！」

あわてて、眉と眉の間の皮膚を左右に引っ張って伸ばした。

「何々……。へえ、そうなんだ」

半分はお姉ちゃんのせいなのに、まるで他人事のように原稿用紙を眺めている。

「どうしてスマホのこと、いちいち『スマートフォン』って書いてるの？」

顔をしかめるお姉ちゃんに、「スマホより文字数が多いから」と、恨みがましく答えた。

「ふうん。まあ、いいんじゃない」

お姉ちゃんは興味なさそうに、投げるようにして原稿用紙を返してきた。思わずムツとする。

「何かひと言ないの？」

あたしはムキになった。「わたしのせいでごめんね」とか、「よく書けてるよ」とか。優しい言葉の一つもあっていないのに、内心イラッとした。

でも、お姉ちゃんから返ってきたひと言は、思いもよらないものだった。

「魂、売るんだ？」

タマシイ？

戸惑っていると、お姉ちゃんはむくりと起き上がり、まっすぐにあたしを見つめた。

「あんたはプライドを投げ捨てて、学校という強大な力にねじ伏せられ、（注）卑屈になって許しを請うんでしょう？」

③ 心臓をつかまれたみたいに息が止まる。

爪が食い込むほど、こぶしを握った。

「じゃあ、どうすればいいっていうの!？」

④ 別に。わたしも賛成。わたしたちは、か弱い子どもだもんね」

お姉ちゃんは降参というように、ひょいと両手を上げた。

一週間が経ち、水曜日の放課後。

あたしは職員室に反省文を持っていった。

三崎先生が、奥の机で何かを書いている。

深呼吸をしてから「失礼します」と入っていった。

あたしに気づいた松島先生が、さっと立ち上がってついてくる。うつとうしいけれど、担任としての親心かもしれない。B
ごくりとつばをのんで、「三崎先生」と声をかける。丸つけをしていた三崎先生が、赤ペンを止めてこちらを見た。

「反省文を……」

「職員室に来たら、まずはクラスと名前を言うと、生徒手帳にも書いてあるはずです」
威圧的な声に後ずさる。

「二年B組、朝比奈知里、です」

⑤ 暑くもないのに、背中につつと汗が流れた。

「何か用ですか」

「反省文を持ってきました」

手に持っていた原稿用紙を差し出す。でも、三崎先生は手を出さない。

「読んでください」

「え？」

「反省文を書いて、先生の前で読み上げるといのが一連のルールです」

松島先生を見ると、眉毛をハの字にしてうなづく。

「そういう決まりなんだよ」

小声で耳打ちされた。知らなかった。

職員室には、ほかにも先生がたくさんいる。こちらを見ていないけれど、耳を澄ましている気がする。何かの用事できている知らない生徒もいて、ちらちらとこちらを見ていた。

「ほら、さっさと済ませて、持って帰りなさい」

三崎先生が、机の上にあたしのスマホをコトリと置いた。お気に入りの白いカバーが懐かしい。読めばいいんだ。ただ、読めば。

あたしは原稿用紙を広げて、視線を落とした。

「反省文、二年B組、朝比奈知里。五月十日水曜日の放課後、校門を出たところでスマートフォンが鳴り……」
顔が熱い。声が震えそうになる。喉の奥から、声とは別のものがこみ上げてきて、何度もつばをのみ込んだ。何も考えるな。感情のスイッチを切れと、自分に言い聞かせる。

「電話を切った後、姉に頼まれたコンサートの、チケットを……」
棒読みする声が、とぎれとぎれになる。

先生は、何をしたいんだろう。

これは、見せしめ？

校則を破ると、こんな屈辱的な目にあうんだという……。

反省文を読み上げている自分が、本来の自分から（注2）乖離していく。

あたしが、あたしじゃなくなっていく。

力でねじ伏せられ、自尊心を奪われ、心を支配されようとしている。

声を上げて泣きたい自分が出てきそうで、歯を食いしばった。

先生の前で屈したくない。絶対に、泣いてなんかやらないつ。

「あれえ？ 朝比奈せんばーい、何やってんの？」

間の抜けた声をして、ハッと我に返る。

空気を読まない友樹が、両手をふっている。

くるくるした、赤茶けた髪。地毛証明書は人権侵害だと憤っていた。

人権。人の権利。

あのときは、全然わかっていなかった。

あたしは、あたしでいる権利がある。

⑥ 自分が同じような目にあつて、今、やっとわかるなんて。

「おい、朝比奈、どうした」

松島先生が、あわてたようにあたしの手元を見ていた。

見ると、反省文が手の中でくしゃくしゃになっている。

「……いりません」

「え？」

疑問符ぎもんふを伴ともなつて、松島先生と三崎先生の声がそろつた。

⑦ 「スマホ、いりませんから」

あたしはそれだけ言うと、くるりと背中を向けて職員室を出た。

(注1) 卑屈へきつ＝必要以上に自己評価を低くし、いじける様子。

(注2) 乖離かいり＝はなれること。

(工藤純子『ルール!』より)

問1 ――線部A「かけがえのない」・――線部B「うつつうしい」・――線部C「棒読みする」の意味として最も適切なもの

の後の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

A「かけがえのない」

ア めったにお目にかかれない

イ このうえなく大切な

ウ 思わず熱中してしまう

エ 強く共感できる

B「うつつうしい」

ア なんとなく気になるさま

イ しかたないとあきらめるさま

ウ 何事かと警戒するさま

エ わずらわしく不快なさま

C「棒読みする」

ア はつきりと発音しながらゆつくりと読む

イ 緊張するあまり原稿の言葉をとばして読む

ウ 相手が聞き取れないように意識して小さな声で読む

エ 音声に強弱をつけず気持ちを代入しないで一本調子で読む

問2 ―線部①「数ページ読んで、ぱたんと閉じる」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 本を読んで内容に集中することで、反省文を書く不快な気分からのがれようとしたが、うまくいかなかったから。
イ 本を読んでも、反省文を書くヒントが見つからず、平常心を保てない自分に嫌気がさし、投げやりになったから。
ウ 本を読んでいる時もいつ返してもらえるかが気になり、別の本を読むことでスマホ依存からぬけだそうとしたから。
エ 本の内容が理解できないのは、文芸部としては致命的なので、気分を変えて集中できる本を選ぼうとしたから。

問3 ―線部②「ヘンなところで、カチリとスイッチが入る」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 思ってもいないことを書くことは得意なので、文芸部の面目を保ちつつ自分を認めてもらうために先生のご機嫌取りをしようというずるがしこい感情に切り替わったということ。

イ 思ってもいないことを書いた経験はないけれども、罪を軽くするためになんとか先生の心を動かす内容を書かなければという追い込まれた苦しい感情に切り替わったということ。

ウ 思っていないことを書くことは本意ではないけれども、スマホを返してもらうために先生の心を打つすばらしい内容を書いてやろうと意気込む前向きな感情に切り替わったということ。

エ 思っていないことを書かなければどうにもならない状況なので、原稿用紙の制限字数さえ満たせばどうでもいいという開き直った感情に切り替わったということ。

問4 — 線部③「心臓をつかまれたみたいに息が止まる」とありますが、このときの「あたし」の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 嫌な思いをしながら力を込めて反省文を書いたのに、ほめてくれないことにながかりする気持ち。

イ 嫌な思いをしながら力を込めて反省文を書いたのに、無責任な発言に気を悪くしていらだつ気持ち。

ウ 嫌な思いをしながら力を込めて反省文を書いたのに、痛いところを指摘されてはげしく動揺する気持ち。

エ 嫌な思いをしながら力を込めて反省文を書いたのに、姉に批判されて相談したことを後悔する気持ち。

問5 — 線部④「別に。わたしも賛成。わたしたちは、か弱い子どもだもんね」とありますが、「お姉ちゃん」の言いたいことに最も近い意味を持つことわざを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 急いては事をし損じる

イ 長いものには巻かれろ

ウ 負け犬の遠吠え

エ 溺れる者は藁をもつかむ

問6 — 線部⑤「暑くもないのに、背中につつと汗が流れた」とありますが、この時の「あたし」の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 反省文を出してすぐに終わりだと思っていたのに、三崎先生がじらすので、早くスマホを返してほしいと焦る気持ち。
イ 反省文を提出しに来たが、三崎先生から堅い口調でルール通りに振る舞うことを強要され、緊張し不安になる気持ち。
ウ 自分が文芸部のプライドをかけて書いた反省文を読んで、三崎先生がどのような感想を抱くのか心配する気持ち。
エ 反省文を読み上げに来たものの、いざ三崎先生を前にするとうまく声に出すことができず、いらだち困惑する気持ち。

問7 — 線部⑥「自分が同じような目にあって、今、やっとわかるなんて」とありますが、「同じような目」とはどういうことが同じなのか。十字以上二十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数にふくめます。

問8 — 線部⑦「スマホ、いりませんから」とありますが、どうしてこのように言ったのですか。その理由の説明として誤っているものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 屈辱に耐えることができず声を上げて泣きたい気持ちなので、その場にとどまっていたくなかったから。
イ 校則にしばられることで自尊心を奪われ、本来の自分でなくなること耐えることができなかったから。
ウ 校則を破ったことをつぐなう方法は、反省文を読み上げなくても他にあるということに気がついたから。
エ 先生の顔色をうかがって書きたくもない反省文を書いたのは、間違いだったという自覚が芽生えたから。

(お わ り)